

エンジン認証に関する当社の不正行為について

日野自動車株式会社は、日本市場向け車両用エンジンの排出ガスおよび燃費に関する認証申請における不正行為を確認しました。

中型エンジン「A05C(HC-SCR)」は排出ガス性能の劣化耐久試験において、大型エンジン「A09C」および「E13C」は認証試験の燃費測定において、それぞれエンジン性能を偽る不正行為があったことを確認し、エンジン性能に問題があることも判明したため、本日、これら 3 機種とその搭載車両の出荷停止を決定しました。小型エンジン「N04C(尿素 SCR)」についても、不正の有無は判明していないものの燃費性能の問題が判明したことから、これら 4 機種について、国土交通省および経済産業省に報告いたしました。

お客様をはじめとするステークホルダーの皆様には、多大なるご迷惑をおかけすることとなりましたことを深くお詫び申し上げます。

1. 経緯

北米市場向け車両用エンジンについて、社内にて排出ガス認証に関する課題を認識したことから、外部弁護士の主導の下、自主的に調査を開始し、現地当局への報告を実施しました。これまでの間に米国司法省からの調査も開始されており、当社は当局の調査に全面的に協力しております。

一方で、日本市場向けエンジンに調査対象を拡大し、外部弁護士とエンジン認証手続きに関する調査を進め、排出ガスおよび燃費といったエンジン性能の再確認も行ってきました。

現行規制である平成 28 年排出ガス規制(ポスト・ポスト新長期規制)対象エンジンの複数機種において、認証手続き上の不正行為があったことを確認するとともに、エンジン性能に問題があることも判明したため、本日、当該エンジン「A05C(HC-SCR)」「A09C」「E13C」およびその搭載車両の出荷停止を決定しました。小型エンジン「N04C(尿素 SCR)」についても、不正の有無は判明していないものの燃費性能の問題が判明したことから、これら 4 機種について、国土交通省および経済産業省へ報告をいたしました。

2. 判明事項および対応

平成 28 年排出ガス規制(ポスト・ポスト新長期規制)対象エンジンにおける判明事項及び対応は以下の通りです。

(1) 中型エンジン「A05C(HC-SCR)」

[判明事項]

エンジン認証試験の 1 つである排出ガス性能の劣化耐久試験において、排出ガス浄化性能が劣化し規制値に適合しない可能性を認識した上で、排出ガス後処理装置の第 2 マフラー※を途中で交換し試験を継続した事実を確認しました。

排出ガス劣化耐久性能の再試験結果から、経年変化により排出ガスの規制値を超過する可能性があることも判明しています。

※エンジンから排出された NO_x を燃料(HC)と還元反応させ、窒素と水に浄化する装置

[対応]

「日野レンジャー」の同エンジン搭載車型の出荷を停止します。今後、再発防止策を講じた上で、出荷再開に向けた対応を至急進めてまいります。

あわせて、経年変化による排出ガス規制値超過の可能性に対し、使用過程車へのリコール等の対応準備を可及的速やかに進めてまいります。

(2) 大型エンジン「A09C」「E13C」

[判明事項]

認証試験の燃費測定において、測定装置の操作パネルから、燃料流量校正値を燃費に有利に働くような数値に設定し、実際よりも良い燃費値を燃費計に表示させるようにして試験を実施した事実を確認しました。

技術検証により、実際の燃費性能が諸元値に満たないことも判明しています。

[対応]

同エンジンを搭載する大型トラック「日野プロフィア」および大型観光バス「日野セレガ」の出荷を停止します。今後、再発防止策を講じた上で、出荷再開に向けた対応を至急進めてまいります。

あわせて、使用過程車に対しては、正しい諸元値を確認した上で必要な対応を行います。

※同エンジン 2 機種はいすゞ自動車株式会社 大型観光バス「ガーラ」にも搭載

(3) 小型エンジン「N04C (尿素 SCR)」

[判明事項]

現在調査中であり、不正行為の有無については判明しておりませんが、技術検証により、実際の燃費性能が諸元値に満たないことが判明しています。

[対応]

使用過程車に対して、正しい諸元値を確認した上で必要な対応を行います。

なお、同エンジンを搭載する小型バス「日野リエッセⅡ」は、モデル切り替えのため現時点で新規出荷はありません。

※同エンジンはトヨタ自動車株式会社 小型バス「コースター」にも搭載

また、これらのエンジン機種の搭載車について、排出ガスおよび燃費に関する税制優遇への影響を精査し、追加納付が必要な場合は当社が負担してまいります。

<出荷停止：対象エンジン・車種>

種類	エンジン 型式	排出ガス 後処理装置	搭載車種	(参考) 21年度 平均販売台数/月
中型エンジン	A05C	HC-SCR	中型トラック「日野レンジャー」	737台
大型エンジン	A09C	尿素SCR	大型トラック「日野プロフィア」	778台
			大型観光バス「日野セレガ」	2台
	E13C	尿素SCR	大型トラック「日野プロフィア」	360台
			大型観光バス「日野セレガ」	2台

なお、上記以外の機種については、現時点では、排出ガス規制値超過の可能性および燃費諸元値に関する問題は見つかっておりません。

3. お客様への対応

お客様に大変なご迷惑とご心配をおかけすることを心からお詫び申し上げます。お客様の稼働への影響を最小限にすべく、真摯な対応を可及的速やかに実行してまいります。なお、当社から使用過程車への対応に関するご連絡を差し上げるまでの間、引き続き車両をご使用いただくにあたってお客様の側でご対応をいただく事項はございません。

経年変化による排出ガス規制値超過の可能性が判明した「A05C(HC-SCR)」搭載の「日野レンジャー」一部車型については、使用過程車へのリコール等の対応を急ぎ検討し、お客様に速やかにご連絡申し上げます。

実際の燃費性能が諸元値に満たないことを確認した「A09C」および「E13C」搭載の「日野プロフィア」および「日野セレガ」、「N04C(尿素 SCR)」搭載の「日野リエッセⅡ」については、これらの車両をご使用中のお客様への対応を至急検討してまいります。

なお、今回判明した不正行為およびエンジン性能に関する事項は、走行機能に影響はなく、安全上の懸念が発生するものではありません。

4. 原因と再発防止

現時点までの判明事項から、現場における数値目標達成やスケジュール厳守へのプレッシャー等への対応が取られてこなかったことが問題の背景にあると考えており、経営として非常に重く受け止めています。

今後の会社経営においては、コンプライアンス最優先の姿勢を明確にし、すでに着手している組織変更や業務プロセスの見直しといったガバナンスの改善に加え、従業員一人ひとりの意識改革への取り組みを進めてまいります。

5. 今後について

今後も総点検として、エンジン認証手続きに関する徹底的な事実関係の調査、認証プロセスの遵守状況およびエンジン性能の検証を継続してまいります。

加えて、事案の重要性に鑑みて、今後、当社と利害関係のない外部有識者による特別調査委員会(仮称)を設置し、事案の全容解明および真因分析に加え、当社の組織の在り方や開発プロセスにまで踏み込んだ再発防止策の提言をいただくことといたします。

当社は、その結果も踏まえて、今後も、信頼回復に向けた抜本的な再発防止およびコンプライアンス・ファーストの企業体質再構築に取り組んでまいります。

以上

＜参考＞ 平成 28 年排出ガス規制 (ポスト・ポスト新長期規制) 対象エンジン 一覧

種類	エンジン 型式	排出ガス 後処理装置	搭載車種	発売年月	累計 販売台数※	
小型 エンジン	N04C	尿素SCR	小型バス「日野リエッセⅡ」	2019年8月	2,057台	◆
		HC-SCR	小型トラック「日野デュトロ」	2017年5月	70,156台	
中型 エンジン	J05E	尿素SCR	小型バス「日野ポンチョ」	2017年12月	955台	
	A05C	尿素SCR	中型トラック「日野レンジャー」	2017年5月	34,549台	
			中型バス「日野メルファ」	2017年7月	1,017台	
			大型観光バス「日野セレガ」	2017年7月	463台	
			大型路線バス「日野ブルーリボン ハイブリッド」	2017年8月	301台	
		HC-SCR	中型トラック「日野レンジャー」	2017年5月	43,044台	◆
大型 エンジン	A09C	尿素SCR	大型トラック「日野プロフィア」	2017年5月	48,827台	◆
			大型観光バス「日野セレガ」	2017年7月	1,429台	◆
	E13C	尿素SCR	大型トラック「日野プロフィア」	2017年5月	19,276台	◆
			大型観光バス「日野セレガ」	2017年7月	893台	◆

※2022 年 2 月末時点 ◆今回問題が判明した機種